

コッパ・チェントロ・ジャッポーネ 2025

10月12日(日)・13日(祝)開催



昨年開催の『コッパ・チェントロ・ジャッポーネ 2024』の様子 中部電力ミライタワー下にフェラーリや国内外の名車が勢揃い

日本のミッドランド・名古屋を舞台にモビリティの昨日・今日・明日を俯瞰するアジア最大級のイベント「コッパ・チェントロ・ジャッポーネ 2025」が10月12、13日、栄の久屋大通公園や名城公園、名古屋市役所をメイン会場に華やかに繰り広げられる。同イベントは4年目だが今年では戦後80年で「平和に寄与するクルマというテーマに取り組む」と平松正光同実行委員長は意気込んでいます。

開催日が2日間に倍増

コッパ・チェントロはイタリア語で「杯」「中心」という意味で、日本の中心で自動車のコンクールを開催する、というのがネーミングの趣旨。「世界最大の自動車産業は当地方のバックボーンで、その昨日・今日・明日を考えるきっかけになれば、と始めたイベント。今年度は終戦80周年記念と名古屋市とイタリア・トリノ市姉妹都市提携20周年を記念する事業も新たに加わり、開催日も1日から2日間、に倍増しました」と平松さん。

従来から3大人気イベントは①久屋大通公園のミライタワー（テレビ塔）を中心としたエリアで国内外のクラシックカーが展示される「コンコロソ・デレガンツァ」②名古屋市中心部を約120台の名車が名古屋市役所を起点にパレードする「グラン・プレミオ・サカエ」③名城公園南遊園では、11月6～9日、愛知・岐阜県で開催される「世界ラリー選手権」のプロローグとしてWRC・カーによるエキシビション・ラン。

赤いフェラーリの華麗さを競う

①の一番の見どころは水辺広場の水盤に16台のフェラーリを“浮かべる”シーン。「栄の街を映し込む水盤に深紅のフェラーリが浮かび、街に溶け込む情景は圧巻。ここでのタイトルは『ロッソ・ロッソ（赤と赤）』。世界一の自動車産業の街の中心地で、世界一ブランド力のあるフェラーリの赤い車の華麗さを競い、世界一の事造りに挑戦するイベント」と平松さん。

またテレビ塔直下や北の芝生広場では「日本におけるトリノデザインの車」の題で、日本のモーターゼーションが始まった1960年代からの車をオーナーから募集して展示。自動車専門誌カー・



コッパ・チェントロ・ジャッポーネ 2025 について熱く語る平松氏
グラフィックの代表らに審査してもらいイベントも実施。さらに今回、戦後80年記念事業と連動して日本の自動車産業の歴史を振り返る展示を久屋大通公園の通称「ラルフ前」で開催を予定。トヨタ自動車博物館（長久手市）と連携して進めている。

往年の名車の優雅なパレード

②は1920年代からの国内外の往年の名車約120台が名古屋市役所を起点に外堀通り一伏見通一広小路通り一久屋大通一本町通のコースをゆっくりパレードし名古屋市役所に戻る優雅なイベント。今年ではカーボンフリー燃料使用車のデモ走行も行う予定。

「①が静を楽しむ美術鑑賞とするなら②は動く博物館。音や振動、匂い、走る一体感、多様な車が醸し出す個性を楽しんで」と平松さんは話す。